

見どころ満載！！ 津宮健康ウォーキング・マップ

～津宮地区及び周辺の歴史・文化史跡の探訪～



津宮まちづくり協議会 ～誰とでも親しく笑顔でまちづくり～

1 はまとり い じょうや とう よさの あきこ かひ 浜鳥居・常夜灯・与謝野晶子歌碑

香取神宮表参道の“一の鳥居”であるこの鳥居は、利根川の津宮河岸に建つ。現在の鳥居は、平成14年に竣工された。この辺りの利根川は、もともと香取が浦（香取の海）と呼ばれ、鳥居も水中に建ち、浜鳥居と呼ばれた。香取・鹿島・息栖の三社参詣の際は、この鳥居をくぐった。ここに建立されている常夜灯（日本遺産・香取市指定文化財）は、明和6年（1769年）に三社参詣の講中の人々が航路の安全を祈願し香取神宮に奉納した。高さは2.8mあり、利根川を行き交う船の目印となった。その傍らに、歌人与謝野晶子の歌碑がある。晶子は、明治34年（1911年）に銚子を訪れた際に津宮に立ち寄り、鳥居河岸の宿屋で歌を詠んだ。

～かきつばた香取の神の津の宮の宿屋に上る板の仮橋～



浜鳥居



常夜灯

与謝野晶子歌碑

2 ただすばし 董橋（草履拔橋、じょん抜き橋）

根本川に掛かるこの橋は、香取神宮への表参道に掛かり、例幣使（注）の参向時には、ここで身を滌いだと言われ、衛兵の見張所もあったことから“董橋”の名がつき、“津宮大橋”とも呼ばれた。人々は、この場所で豊富な湧き水の流れに身を清め、衣と草履を履き替えて神宮に向かったことから、“草履拔橋”“靴脱橋”“じょん抜き橋”と転化されたともいわれる。

（注）例幣使…朝廷から毎年神社に幣帛（神に奉納するもの）を奉るために遣わされる勅使



3 ますはら いなり 枅原稻荷神社

神道山の頂にある、香取神宮の末社の一つで、昔は東の宮、西の宮と一緒に1月15日に祭事を行っていた。社殿・朱塗りの鳥居は近年修理され、明治14年の御神燈、紀元2600年記念の手水鉢もある。穀物・農業の神である稻荷神社の狐の像もあった。神事の日には草相撲も催され、眺望に優れ展望台もあった。社殿脇に歌碑「扶美女歌 夏はきぬうら戸にたてば大利根のあさもや晴れてよしきりのなく 幹子」がある。扶美女は角田扶美、幹子は中河与一の妻で歌人。



4 しんどうやま こふんぐん 神道山古墳群

神道山の大半は香取神宮の所有地で、昔は、香取神宮が「香取山根本寺」を置き寺領として與え守護させたが、安政年間（1780年頃）廃寺となった。神道山には、古墳時代5～6世紀に構築された古墳12基があった。現在は主墳「前方後円墳」1基、陪塚と呼ばれる円墳が6基残っており、昭和52年に市指定の遺跡となった。なお、山頂には「枅原稻荷」も祭られている。



5 かとりじんぐう 香取神宮

香取市北東部、利根川下流右岸の亀甲山と称される丘陵上に鎮座する。下総国一ノ宮。旧社格は官幣大社で現在は神社本庁の別表神社である。祭神は経津主大神。全国にある香取神社の総本社で、全国でも有数の古社である。歴代の武家政権からは、武神として崇敬され、現在は武道分野からの信仰が篤い神社である。12年に1度の午年には式年神幸祭が行われ、約3,000人が整列する供奉行列は、荘厳である。

